

「会員相互の親睦を図り、母校との連携を保ち、その発展に寄与することを目的とする」というたい上げ、同窓会が結成されてから八年目を迎えました。これまでにその目的に向かって、結成記念日である八月十一日に定例総会を開催、同窓会の名簿刊行という大事業を成し遂げたこと、学部への修士課程設置期成同盟会結成に参画して力を尽してきたこと、さらに学部への研究助成、留学生への激励助成等の多くの事業に取り組んで参りました。これらのことにより、会員の方々のご努力の意を受け継ぎ、会員の皆様方のご支援をいたしましたが、この先輩の方々の歩みに学び、新井好仁前会長の意を受け継ぎ、会員の皆様方のご支援をいたしましたが、この意を表し、そのご努力に感謝申し上げます。

「教育を語り、卒業生の心のふるさととする同窓会館をつくりたい。」「激しい時代の変化に対応してたくましく生きる児童・生徒を育むこれからの教育をどう実現させていくか語り合いたい。」「教育に情熱あふれる青年教師を学部から一層多く輩出されることを願いたい。」また「学部の先生方が研究されていることを現場の教師がよく知って、指導を受けられる道筋をつくっていきたい。」といった本会の目的に沿う具体的な提案が、教育の本道を求めて歩まれている会員から多く聞かれるようになってきました。同窓会のさらなる存在の意味を語らっている姿と受けとめています。

これらを事業として実現させていく方途として現在でないことの一つには、八月十一日に開催される総会に一人でも多く出席していただき、自分の意志を反映させていただくこと。二つ目には、他区の理事の方とより活発な意見交換をしていただくこと。三つ目には、会報にいっそう会員の声がのるよう工夫していくことなどが考えられます。

会員の皆様からのご支援をお願いいたします。

### 一、はじめに



## 同窓会のより発展を願つて

第四期同窓会長 清水 正

力を尽して参りたいと考えております。よろしくお願いいたします。

### 二、組織充実を一層おし進めたい

本会を目的に向かって、充実、発展させていくためには、組織の充実を図ることが土台となります。このことをこれまで地区理事の方々のご努力と会報を通してのはたらきかけで、卒業生の皆様に理解を得て正会員の数が増してきております。しかし一層の組織充実の推進を図ることが必要であると受けとめております。

### 三、将来的ビジョンづくりを語り合つていただきたい

「教育を語り、卒業生の心のふるさととする同窓会館をつくりたい。」「激しい時代の変化に対応してたくましく生きる児童・生徒を育むこれからの教育をどう実現させていくか語り合いたい。」「教育に情熱あふれる青年教師を学部から一層多く輩出されることを願いたい。」また「学部の先生方が研究されていることを現場の教師がよく知って、指導を受けられる道筋をつくっていきたい。」といつた本会の目的に沿う具体的な提案が、教育の本道を求めて歩まれている会員から多く聞かれるようになつてきました。同窓会のさらなる存在の意味を語らっている姿と受けとめています。

これらを事業として実現させていく方途として現在でないことの一つには、八月十一日に開催される総会に一人でも多く出席していただき、自分の意志を反映させていただくこと。二つ目には、他区の理事の方とより活発な意見交換をしていただくこと。三つ目には、会報にいっそう会員の声がのるよう工夫していくことなどが考えられます。

会員の皆様からのご支援をお願いいたします。

# 信州大学 教育学部 同窓会報

信州大学教育学部同窓会報

### 【第8号】

発行人 清水 正  
事務局 長野市西長野6ノロ  
信州大学教育学部  
教育実践研究  
指導センター内  
TEL (0262) 32-8106(代表)



福寿草(清水 正 画)



講演中の青木重氏

信州大学教育学部同窓会第六回総会は、平成五年八月十一日（水）長野市岡田町ホテル信濃路において、五十八名の出席者を得て開催された。丸山昭子副会長の開会宣言に続き、新井好仁会長がこれまでを総括した挨拶に立たれ、小口明・小林健三氏を議長団に選出、議事録署名人に杵淵恭宏・渡辺時夫氏を選任した。次いで、久保信男・和田清氏を書記に任命して議事に入り、次の三議案が審議された。

## 第六回総会報告

第一号議案 平成四年度事業報告書、収入・支出決算書及び財産目録の承認について

松林大幹事長が事業報告、北沢競幹事は会計報告をいすれも総会資料に基づいて説明し、清水厚美監事による「適正に処理されている」旨の会計監査報告があり、全会一致で承認された。

第二号議案 平成五年度事業計画書（案）及び収入・支出予算書（案）の承認について  
幹事長及び会計担当幹事が総会資料に基づいて説明した後、種々審議して原案通りいすれも承認された。事業計画の概要是後述のようであり、予算については、組織充実を図る活動費増額が盛り込まれた。

第三号議案 役員の改選・任期の確認について  
会則第十条に基づき新会長に清水正氏が選出され、就任受諾と決意表明の挨拶があった。続いて副会長及び理事の推薦が会長からあり、満場一致で新役員が承認された。また、幹事の委嘱もあって紹介された。

なお、初代会長の松橋英幸氏と第二代会長の倉田稔氏は、会則第十三条によって顧問に推挙された。役員名簿は別掲のようである。  
議事終了後は、小林輝行教育学部長（名譽会長）と岡宮二郎信濃教育会長（元教育学部長）から來賓祝辞をいただいた。小林氏は、魅力ある大学づくりにいかに取り組むかについて、当面する教育学部の諸課題を挙げ、また、同窓会の支援に謝辞が述べられた。学部長當時から同窓会設立を要請し続けてきた岡宮氏は、その経緯と大学院の設置に果たした多大な功績を讃えられた。



通常総会は毎年8月11日に開催される

- 一、会報発行 会費納入者、特別会員に配付
- 二、研究助成 海外派遣制度の選考学生対象
- 三、学部後援 大学院設置、充実等の援助
- 四、団体加盟 大学院設置期成同盟会
- 五、組織充実 組織を拡充し地域活動の促進
- 六、長期構想計画 同窓会館の建設、同問題研究委員会の設置、検討。

事務局だより

同窓会の重点課題とした大学院設置への支援活動に並行し、同窓会組織の強化、充実についても懸案課題であった。その結果、歴代会長、幹事長を中心に、役員一丸となって取り組まれた成果が着々と実りつつある。ただ今、事務局で取りまとめ中であり、今夏の総会には現状が報告される。

# に充拡の組織一層のご協力を

特別会計として将来の同窓会事業のために、基本財産に備蓄されている。できるだけ早く、健全財政化を計ることが同窓会の存続にかかっている。

第四期同窓会役員名簿

(平成五年八月) (七年八月)

會議日誌抄(平成五年度)

## 大学院教育学研究科の完成にあたつて

教育学研究科長 小林輝行



同窓会の皆様方には、日頃本学の研究・教育に対し、物心両面にわたり一方ならぬご支援、ご協力を賜り心から厚く御礼を申し上げます。お蔭様

にて、信州大学大学院教育学研究科家政教育専修設置について予算内示があり、これまで本学大学院教育学研究科において唯一未設置であつた家政教育専修が設置されることになりました。この家政教育専修の設置により大学院教育学研究科は、二専攻十一専修、総定員三十七名と

なり、本学部の長年の懸案でありました大学院の全専修が整備されここに完成をみることになりました。これも同窓会の皆様方の母校に対する温かいご支援ご高配の賜物であり、学部を代表し深甚なる感謝を申し上げる次第であります。

今後は大学院校舎の建設をはじめ、諸施設設備面、教育内容面の整備充実という大きな課題があり、これらの課題達成により本学大学院は名実共に初めて完成したことになる次第であります。今後とも同窓会の皆様方の変わらぬご支援ご協力の程を切にお願い申し上げ、大学院完成のご報告と御礼のご挨拶といたします。

があり、修士論文指導のための社会科教育特別研究がある。ところで、本専修は十二名の教官で、本研究科のなかで最もスタッフが多い専修であるが、他方では本専修分野の多様性に対応して前述したように研究分野・授業科目が細分化されているために、事実上どの分野の教官も一名である。こうした条件の下で社会科教育専修としての統一性と各分野の専門性とを両立させるべく全スタッフで努力している。

### 家政教育専修

林 隆子

本学部大学院教育学研究科が、平成三年度に設置されたから三年を経て、最後に残されていた家政教育専修が今年ようやく設置されることになりました。大学内外の関係する方々の大きなご援助のたまものと感謝いたしております。

家政教育専修は、最近の人間生活をとりまく社会・経済的環境の変化に対応し、身近な社会に根ざし国際的視野をもつて生活設計を行うことができる人を育成することを目指しています。内容は、次の2研究領域を骨格としてそれぞれの研究を深めるよう構成されております。

(1) 生涯にわたる健康な生活の構築を目指す物的環境ならびに生活諸手段に関する研究領域

(2) 家庭生活の本質及び機能を追求し、人が人らしく生きる為の人的生活環境を創造する研究領域

### ◇ 教科教育専攻 ◇

#### 社会科教育専修

鵜飼 照喜

社会科教育専修は平成五年四月に、英語教育専修と共に出発した。教官は大学院設置のために政治学、経済学、社会学の三教官が増員され、現在十名である。

大学院生の入学定員は一年学年四名のところ、初年度は四名、二年目の今年は八名の学生が入学し、現員十二名である。そのうち現職教員三名、外国人学生二名である。外国人学生は中国とパンマラディッシュの出身で、本専修の出発の初年度から国際化時代を反映したものとなつてゐる。研究分野は、社会科教育、歴史、地理、政治、経済、社会学・文化人類学、哲学、宗教学であるが、さらに授業科目では社会科教育はI(地歴)とII(公民)に、歴史は日本史と外国史に、地理は自然地理学と人文地理学に区分されている。授業科目の構成は、社会科教育専修の共通科目として社会科教育実践論が置かれ、6名の教授で担当している。また、前述の各授業科目で演習、特論

# 教育学部の近況

(1) 附属長野小の移転改築

校舎が老朽化（昭和三十六年建設）し、懸案となっていた附属長野小学校の移転改築がようやく内定した。今年度政府予算案に用地購入費用が盛り込まれたもので、九四年度中に土地を取得し、九六年度末までに校舎の建築を終え、九七年四月の開校を目指している。

移転先は附属長野中・同養護学校と長野電鉄線を挟んだ北側で、敷地面積も現在の二倍弱、約三万平方㍍を予定している。

(2) 南校舎等の移転改築

教育学部の南側道路（国道四〇六号線）がオリンピック道路として拡幅されるため、工事にかかる南校舎（理科・技術・家政棟）やプールは、急遽移転することになった。南棟は現学部グランドへ移築し、プールは体育館北側（元武道館跡）案で計画が進んでいる。附小移転跡がグランドになるが、工事が終わるまでは何かと不便となる。

なお、長野北都市開発整備事業に関し学部の移転問題がマスコミ等で流れているが、具体的な話はまったくなく、すべて今後の課題である。

(3) 教養課程の廃止

大学設置基準が大幅に緩和され、全国で教養部廃止策が進んでいる。信州大学でも教養部に向けて検討されているが、四年間一貫教育をめざしたカリキュラムが一足先にこの四月か

らスタートした。これまでの教養課程を廃止し、新たに基幹科目と専門系科目を設け、一年次から各学部の専門教育が履修できるようになつた。当分の間、従来通り松本で一年間を過ごすので、学部教官が出かけて一部を担当する。

(4) 平成五年度教育学部卒業生の進路

(平成6年5月1日現在)

進路 先		人數
長野県義務教育教員	136	
長野県高校教員	4	
県外間務	30	
県民公務	36	
大学院進学	11	
大学院等他	55	
その他	36	
合 計		308名

英語教育専修

伊原 巧

英語教育専修は英語科教育学、英語学、英米文学の三分野からなる。

英語科教育学は渡邊時夫教授と伊原巧助教授が担当しており、英語科教育の目標論・指導方法論・指導内容論・學習者論・教師論・異文化理解論等、外國語としての英語教育に係わる基本的諸問題を、研究・実践資料を基に教授・研究している。

英語学は大島真教授と高橋涉助教授が担当しており、大島教授は英語統語構造に見られる諸問題を、談話文法の観点から詳細に究明し、望ましい学校文法のための理論形成を目指している。また高橋助教授は英語の歴史的発達を、音韻論・統語論・語彙論の各分野について重要文献の講読・資料の分析をとおして考察し、英語科教育学の理論的基礎の構築に資することを目指している。

英米文学は谷本泰子教授が担当しており、英米小説の特質の考察と小説研究の方法、さらには文学作品に対する理解力・鑑賞力を高め、独創的な研究能力を養うことを目標に、一九世紀半ば以後の小説のテーマや技法等の研究を行っている。

ここに掲載した三専修のほかは、既に同窓会報第六号（平成4年6月発行）で紹介しました。

たが、県教委から推薦していただきました現職の先生一名に加え、本学部からの進学生三名の合計四名が受験し、全員が合格しました。

英語教育専修

伊原 巧

学校教育専攻  
教育心理学分野・障害児教育分野・幼児教育分野・教科教育専攻  
国語教育・数学教育・理科教育  
音楽教育・美術教育・保健体育・技術教育の各専修。

平成五年度転退職教官	
松林 大	先生（数学教育）
昭和四十四年着任、停年退職	
花井 清	先生（音楽教育）
平成二年着任、停年退職	
吉岡 利治	先生（保健体育）
昭和四十二年着任、停年退職	
鈴村 金弥	先生（障害児教育）
昭和四十二年着任、停年退職	
武藤 考典	先生（学校教育）
昭和四十一年着任、東京電機大学へ転出	
伊藤 政展	先生（保健体育）
昭和五十七年着任、上越教育大学へ転出	

信州の農村は、県歌「信濃の国」には「四つの平は肥沃の地」とか「五穀の実らぬ里やある」と豊かな土地のように歌われていますが、実際にはそのように恵まれた耕地は四つの平の限られた所だけであって、多くは山間地の狭い瘦せた土地ばかりです。二男坊、三男坊に土地を分けて分家させる余裕はありません。そこで、子供にはできるだけ教育を受けさせ、都会や海外へ送り出して活躍させようとする。それが教育県長野を生み、信州人の進取の気性を育てたと言われます。

そのとおりだと私も思っています。私も伊那谷の山間の貧しい農家の五男という猫のしつばに生まれたことでもあり、また信州大学だけでなく東京の大学にも学びた気持ちはあって東京へ出たものでした。

東京の教育界では、長野県出身の教員は勉強家で力のある者が多いという定評があります。事実、教科等の研究の道を進んでいる者はその道で、管理職を目指す者は管理職として、また行政に進んだ者は役所でそれぞれ重要なポストに着き、活躍をしています。なかには理屈っぽさを嫌われたり人と和を欠く一匹狼もないわけではありませんが。ともあれ、学校で出身県を問われて長野県であること答えるとき、ある種の自信のような気持ちが動くのは私だけだと思います。それが、長野県で教員をやっている人たちに対するときは違っていました。ごく親しい友人は別として、そうでない一般の教師からは、東京へ出

## ふるさとは遠きにありて思ふもの

藤井 治

てしまった者たちというように見られている目を感じないわけにはいきませんでした。表題の一節を含む室生犀星の詩「小景異情」が格別好きである気持ちの底に、そのことがかかわっていたのではないかと考えます。故郷に容れられない異端者にも似た哀しみが「ふるさとは遠きにありて思ふもの」としてきましたように思います。

その気持ちが払拭されたのは、昭和の末から平成の始年にかけて五年間ほど、信州大学教育学部同窓会の東京支部理事をやられていてからです。信濃教育会での同窓会総会やそれに続く懇親会に出席する機会が三回ほどあり、そこで温かく受け容れていた大いに感謝します。当時の倉田会長さんには大変お世話になりました。また、そのころ信州大学教育学部に大学院の設置を求める運動が進められていて、同窓会の活動が大変盛り上がっていた時期でもあったことは幸いでした。

大学院の設置については日本図書教材協会の清水厚実氏を中心にして、東京も側面から応援してきたつもりです。私たちの東京の組織は、信山会と称して、長野県の教員養成機関を卒業して東京で教職に身を置く者たちが集う、研修と親睦の会です。私たちは東京においても、常に信州のことを忘れたことはありません。

何年前でしたでしょうか、長野県西部地震の折、木曽郡王滝村が大きな被害を受けたことがありました。私たち信山会の仲間も、この際私たちを育んでくれた郷土のために何らかのお役に立たうということで、管理職が中心になって一口三千円ずつ醸金をしました。そして、子供たちのために使つてほしいと申し添えて十七万円なにがしかを現金封筒で王滝村へ送ったものでした。また、私たちが今、長野県のこといちばん気

にしているのは、ここ何年か帰省の際耳にしたり報道で目にしたりしてきた児童生徒の学力低下の問題です。学力とは何かとか、大学進学の結果だけで評価できるかといった問題はあります。それを含めて学力の問題については真剣に考えることを含めて、そこで本当に主体的な学習態度や学習方法を身につけているならば、今の多様化している大学受験にこそ生きるはずではないかとも考えられるのです。

教育県長野を誇りにしている私たちは、中学生や高校生がスポーツ大会でいい成績を挙げた報道を聞くのは楽しみです。音楽コンクールなどでの好成績を耳にすることも喜びです。大学受験の成績がいいことももちろん嬉しいことです。文武両道で頑張ってほしいと願っています。

信州大学教育学部同窓会については、全面的に地元の皆さんのお世話になっています。感謝申上げますとともに、大学と同窓会の発展を祈念しつつ筆をおきます。

(昭和三二年卒、台東区立育英小長)



大学院の入学宣誓式で宮地学長から入学許可書を受ける新入生  
(94・4・4)

太平洋戦争が勃発したのは昭和十六年である。その翌々年の十八年四月、私たちは長野師範学校本科男子部（修業年限三年）に入学した。戦争真っ只中であった。それから同二十年九月までの二年半を同校に在籍した。入学したとき誰が敗戦を予想しただろう。神国日本は不滅であると教えられ信じていた。しかし、それとは裏腹に戦局は悪化の一途をたどった。

衝撃だったのは、入学した年の十月であった。学生生徒の徴兵猶予が停止され、全国から十万人ともいわれる学徒が徴兵され兵役に服したことである。

さいいわい私たちには、教育系ということで徴兵を免れたが、待っていたのは勤労動員であった。ベンを捨て、食糧増産のための暗渠排水作業に、飛行場建設の土木作業に駆り出された。

それだけでは済まなかつた。十九年九月からは、名古屋と富山の二か所の軍需工場へ送られた。すでに私たちは学生ではなく兵器製造の工員でしかなかつた。

## 記録集 『ペン・鍼・銃』 中川瑞穂



出版された記録集  
寄稿者62人・88篇  
A5判・257ページ

やがて追い打ちをかけるように、動員先に次々と召集令状が届いた。逃がれるに逃がれない。私たちは工場から営門（軍隊）へと急がされ銃を持たされた。ときすでに日本は敗戦の末期であった。

二十年八月十五日、私たちは銃を持ったまま虚脱状態で終戦を迎えた。しかし一縷の望みが残っていた。学校に復帰し勉強ができるということだつたにもか

かわらず、六か月の繰り上げ卒業になつていたのである。

あれから茫々五十年。いつたい私たちの二年半の学校生活は何であつたのか。まさに軍隊の下請けであつたのか。まさに軍

り、土木工事の人足であり軍需工場の労働者であり、最後は急造の兵士であつた。

激動の二年半。いまこれを語り書き置かねば忘却の彼方に消えてしまうにちがいない。この

ような思いから、同期の者に呼びかけて一冊の記録にまとめた。せめてこのささやかな記録が、昭和史の一ページともなればうれしい。

（昭和二十年卒、記録集の編集代表者）

### 研究助成海外派遣留学生便り

#### 中國 国

社会科 野沢和代

中国、上海市へ来て、もう六ヶ月になろうとしています。ここ二ヶ月は年末休み、寒假（冬休み）と続いたため、北京などを旅行したりしましたが、上海へ来てからの四ヶ月というのは中国語の勉強、市内の見学などで終わってしまったよう

に思います。私にとって街へ行ったり、宿舎の近くにある五角場へ行くというのが楽しみの一つになつてゐるのです。たびたび街に出ることで、上海が今、急激に大きく変わろうとしている姿をよ

く見かけます。古いものが壊され、新しく道路が造られたり、外国製のものがどんどん入ってきたりという様子は、上海のいたる所で見かけます。上

海は、これからもどんどん変わっていくでしょう。その姿をもう少し見ていただきたいと思います。最後に、私は留学の機会を与えて下さったことに感謝しております。学部同窓会からご援助いただいたおかげで、とうございました。有効に使わせていただきます。

#### アメリカ

英語科 服部珠予

この度は学部同窓会よりご援助いただき、本当にありがとうございました。

私は、昨年九月から文部省の派遣留学制度により、アメリカの北アリゾナ大学で学んでおりま

す。大学の位置すること、アラッグスタッフは、アリゾナ州にありながら高度二千メートルを越す

信州大学  
教育学部  
同窓会

## 第七回通常総会（通知）

日 時 平成6年8月11日（木）午前10時より  
 会 場 長野市岡田町「ホテル信濃路」  
 次 第  
 1、開会  
 2、会長挨拶  
 3、議長団選任  
 4、議事録署名人の選任並びに書記の任命  
 5、議事  
 第一号議案 平成5年度事業  
 報告書、収入・支出決算書及び財産目録の承認について  
 第二号議案 平成6年度事業  
 計画書（案）及び収入・支出予算書（案）の承認について  
 第三号議案 役員改選・任期の確認について  
 6、来賓祝辞  
 7、閉会  
 総会後、11時20分より記念講演会

### お詫び

卒業生名簿の訂正

記念講演会終了後、「ホテル信濃路」において懇親会（会費五〇〇円）を開催します。こちらへも多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。

平成3年に卒業生名簿を刊行致しました。卒業生各位からご自分の登録内容を寄せていただき、併せて同級生や知人の情報もご協力いただいて出来上がりました。限られた期間に及ぶ限りの努力いたしましたが、ご存命中の方が物故者となつているとのご指摘をいただき、まことに申し訳なくお詫びして訂正させていただきます。

一二八頁倉田利久氏 昭和十一年本科第2部 下伊那郡松川町元大島4476 電話 0265-36-2598 今後ともお気づきの点がありましたら事務局へご連絡をお願い申し上げます。

（卒業生名簿刊行委員会）

（前頁から）コロラド高原にあるおかげで、美しい自然に恵まれた人口四万人程の小さな町です。居住区が近くにあるため、ネイティブ・アメリカンの人口比が高いことも、この町を特徴づけています。このように恵まれた環境の中で、私は社会行動科学学部の国際事情を専攻し、政治・経済・文化などを幅広く勉強しています。人種、習慣の異なる学生達と一つの教室の中で、自分達が日常の中でのいかに関係し合っているのか学ぶことは、大変興味深いものです。

授業の参加の仕方一つをとつても、異文化の中にいることを感じさせられる毎日ですが、ここで出会う一つ一つのこととに、自分の中で衝突したり、受け入れたりしながら生活する中で、多くのことを学ばせていただいております。この貴重な体験を与えて下さった方々に感謝すると共に、自分が少しでもこの留学で学んだことを生かせるよう、色々なことを吸収していくかと思います。

### ◇編集後記◇

同窓会の設立趣意書にも明らかなように、母校に大学院の設置をとの重点課題が実現した。これまで側面から果たした同窓会の支援活動が大きくな評価でき、さらに次へのステップが期待されています。▼国会審議の遅れから、今年度予算が決まる前に原稿執筆をお願いしたために、文中に内示とか内定という表現を使わざるをえなかつたが、間もなくけりがつくはずである。▼お忙しい折にもかかわらず、本号も多くの方からご寄稿いただいだ。お力添えに厚くお礼を申し上げる。▼残雪のころから始めた会報編集ももはや新緑から深緑の季節へと変わり、通常総会準備の時期を迎えた。今年も大勢の皆さんとまたお会いして、近況を語りあえるのが楽しみだ。

（会報担当）